



2025年3月期
決算説明会

2025年5月29日

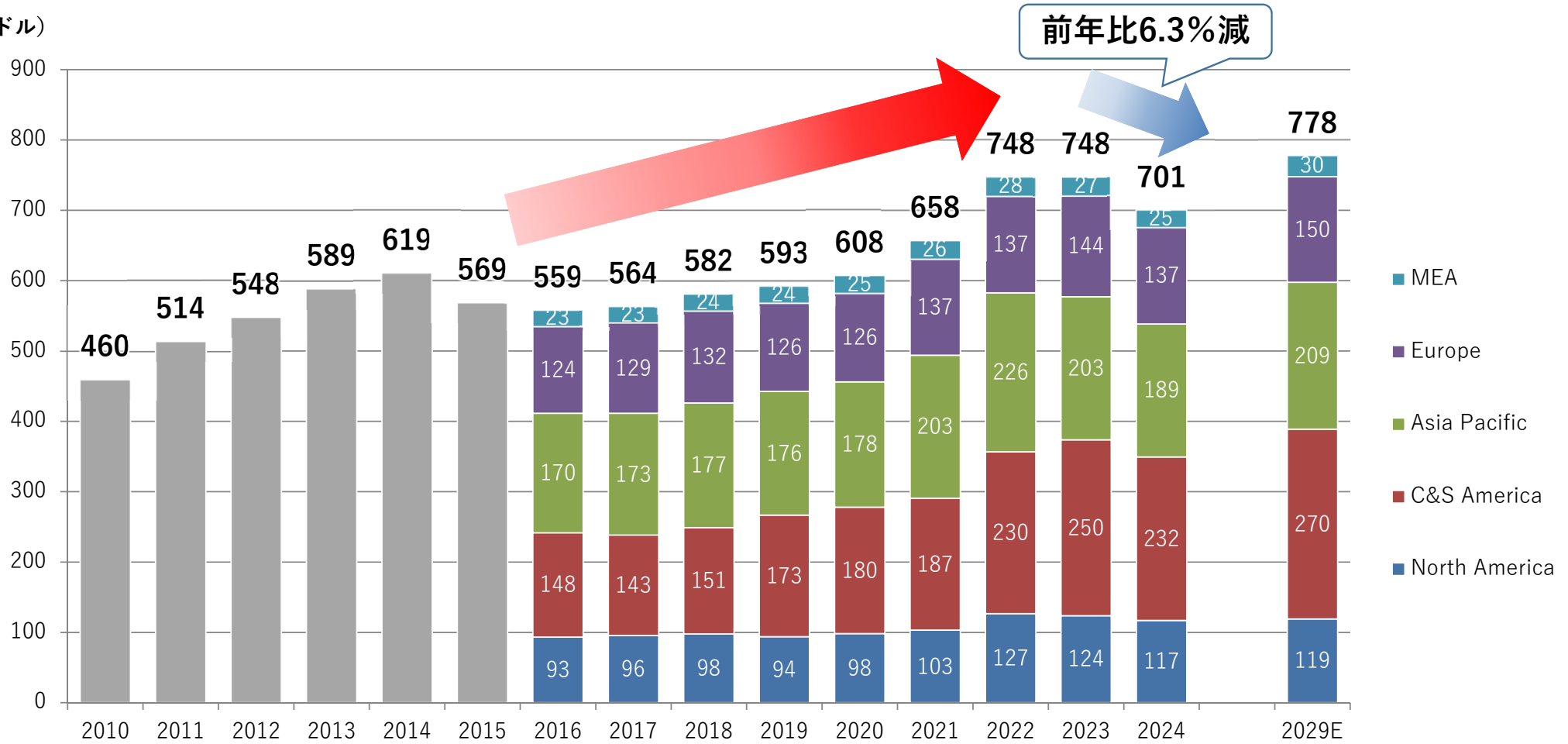
証券コード：4997
東証プライム市場



- I. 世界の農薬市場
- II. 2025年3月期実績
- III. 2026年3月期業績見通し
- IV. 中期経営計画への取組状況
- V. 質疑応答

1. 世界の農薬市場

(億ドル)



出所) AgbiInvestor

国内

気温の高い状態が続き、害虫の発生が増加、
米価高騰による水稲作付面積増加の影響などから、需要は堅調

北米・中南米

流通在庫やジェネリック農薬など
一部品目の価格下落の影響から、需要は弱含み

欧州

一部地域における天候不順の影響から、需要は弱含み

アジア

インドで豪雨の影響から農薬の散布機会が減少したほか、
流通在庫の影響などから、価格・需要は弱含みで推移

II . 2025年3月期実績

(単位：億円、%)

	2025年3月期 実績	2024年3月期 実績		
			前期比	伸び率
売上高	999	1,030	△ 30	△ 3.0
農薬（国内）	233	224	9	4.0
農薬（海外）	692	732	△ 40	△ 5.5
農薬（その他）	19	18	1	8.2
農薬以外の化学品	35	37	△ 2	△ 6.3
その他	18	17	1	8.8
売上原価	667	731	△ 63	△ 8.7
売上総利益	332	299	33	11.1
販売費及び一般管理費	246	224	21	9.7
営業利益	85	74	11	15.3
経常利益	70	59	11	19.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	23	47	△ 24	△ 50.7
ROE (自己資本当期純利益率)	3.0%	6.4%		

 2025.3実績為替レート
 149.51円/ドル
 158.21円/ユーロ

 2024.3実績為替レート
 140.24円/ドル
 151.87円/ユーロ

売上高 1,030億円 → 999億円 (- 30億円)

営業利益 74億円 → 85億円 (+ 11億円)

海外農薬販売の増益

ブラジル収益性改善、北米・欧州子会社が最高益

+ 27億円

円安による増益

+ 5億円

国内農薬販売の増益

+ 1億円

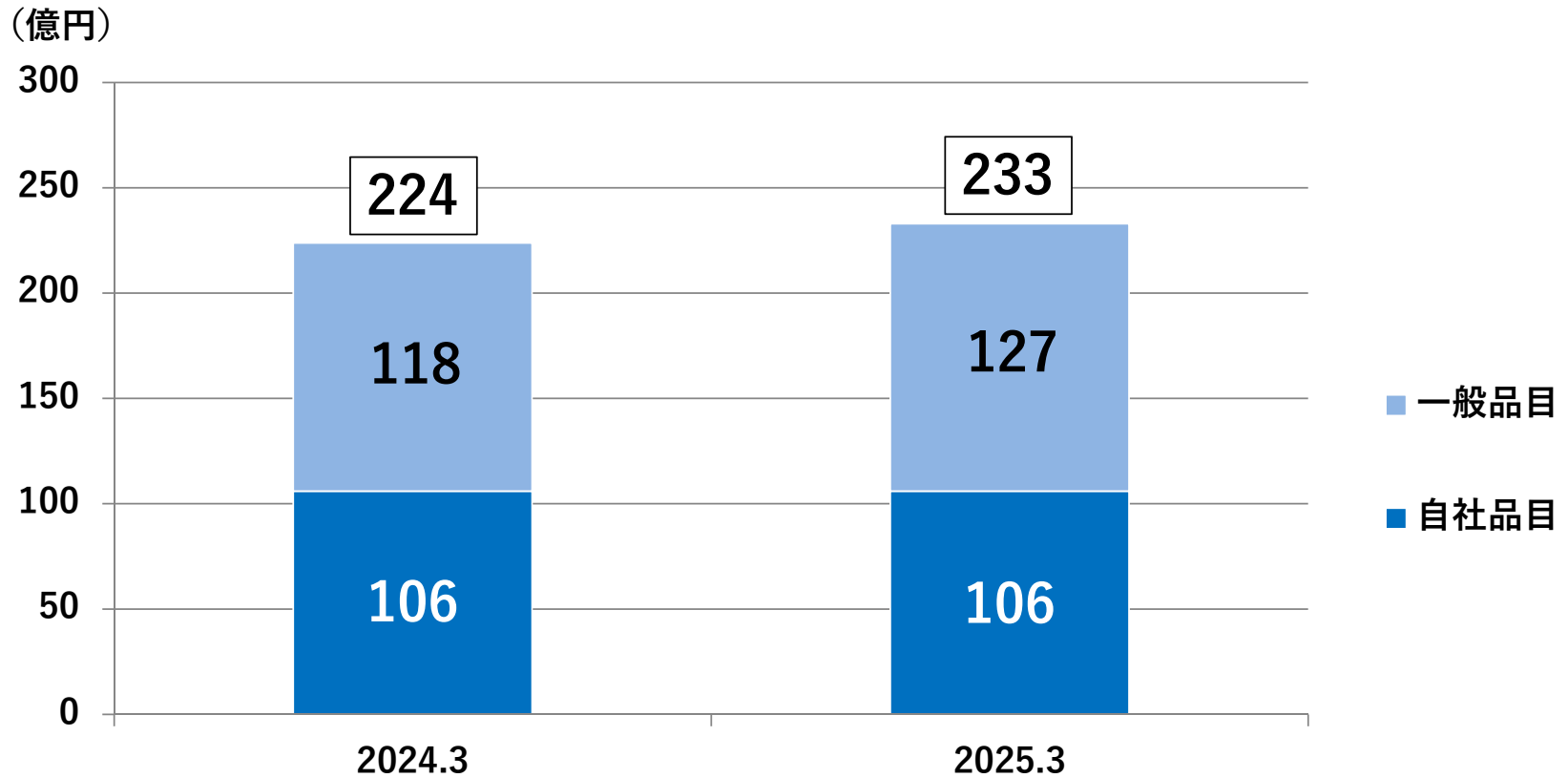
販管費の増加 (為替影響除く)

- 19億円

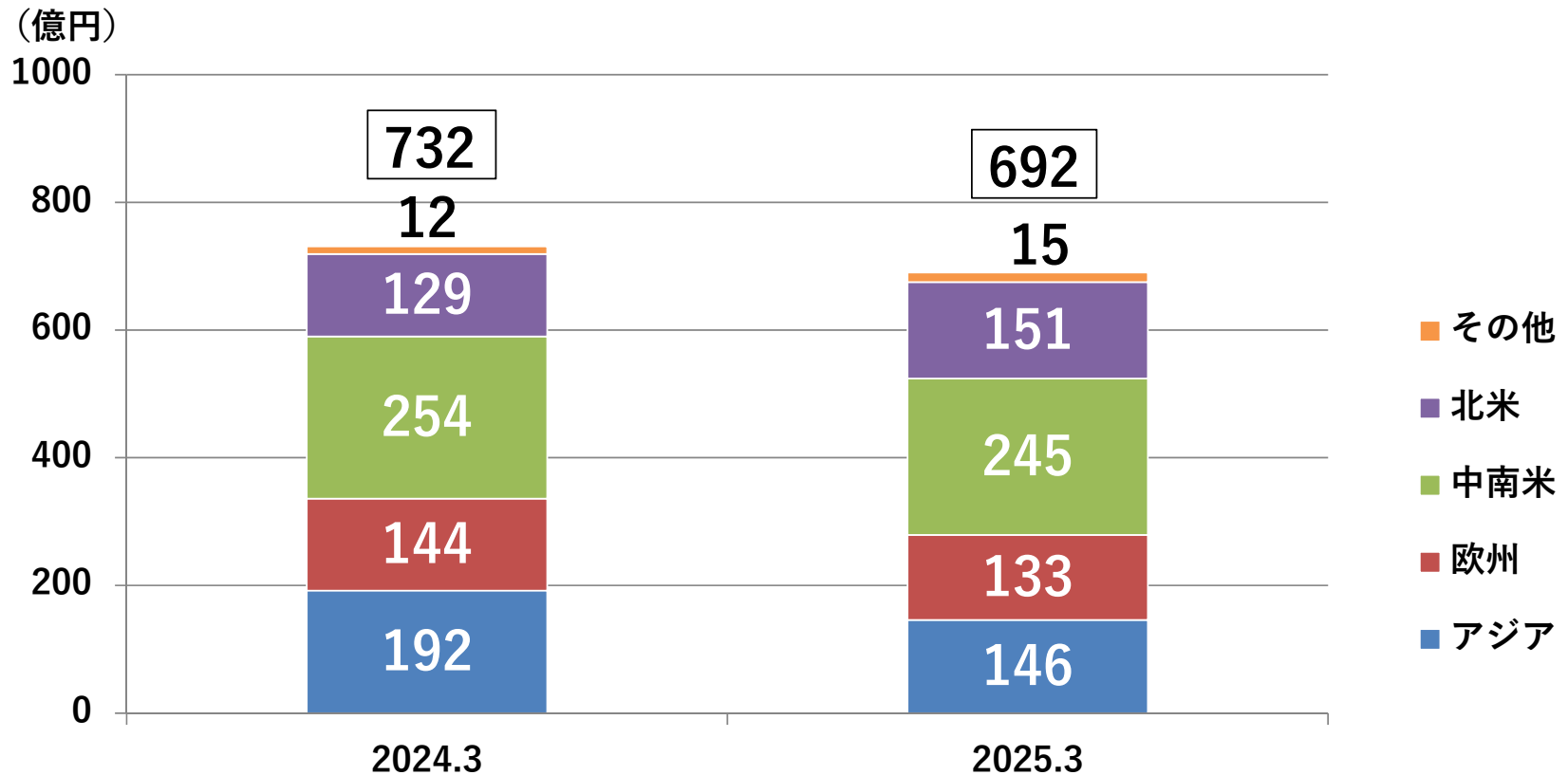
医薬事業の減益

- 3億円

コルテバ社製品の販売好調により増収



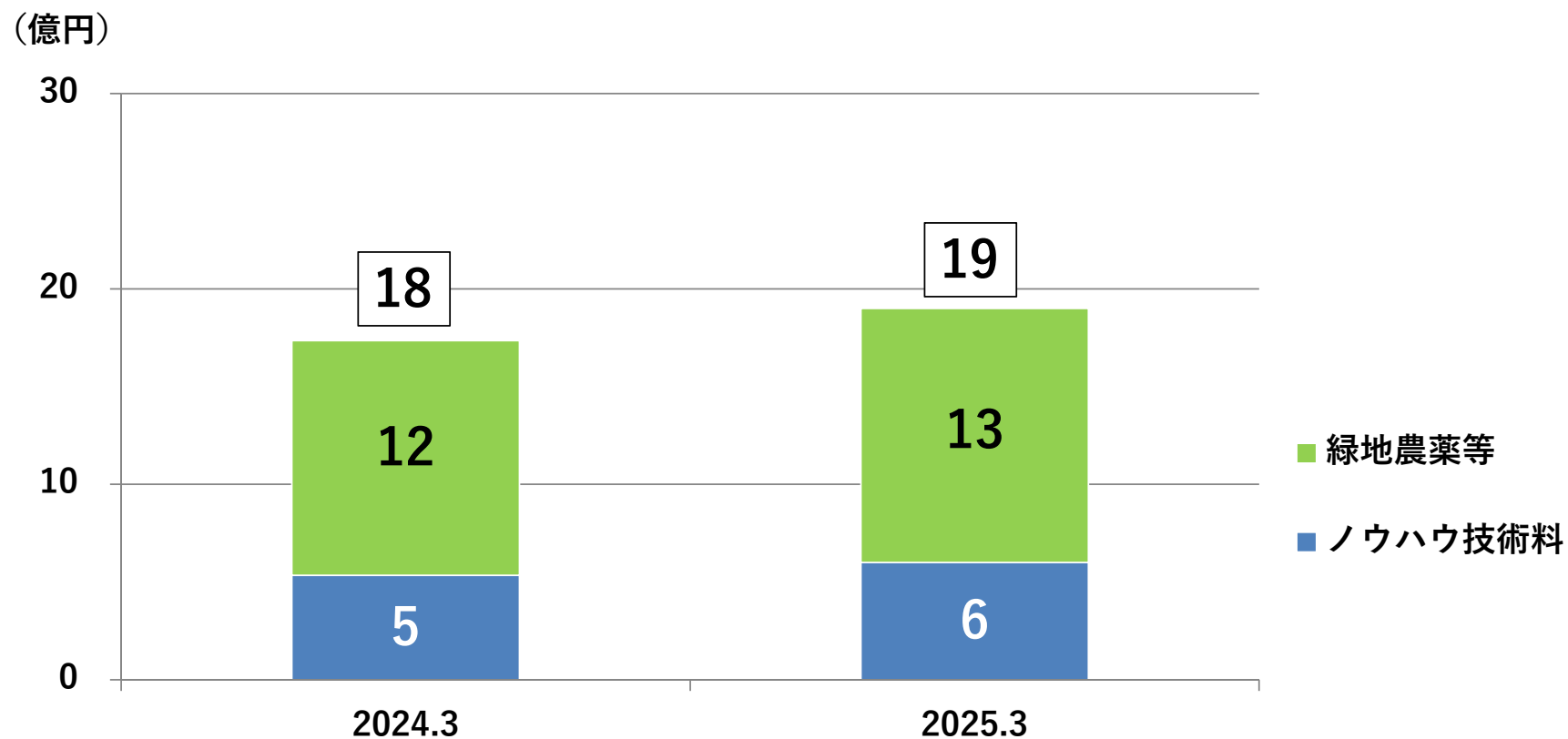
インドで販売低迷も北米などその他の地域が堅調



2024.3実績為替レート： 140.24円/ドル
151.87円/ユーロ

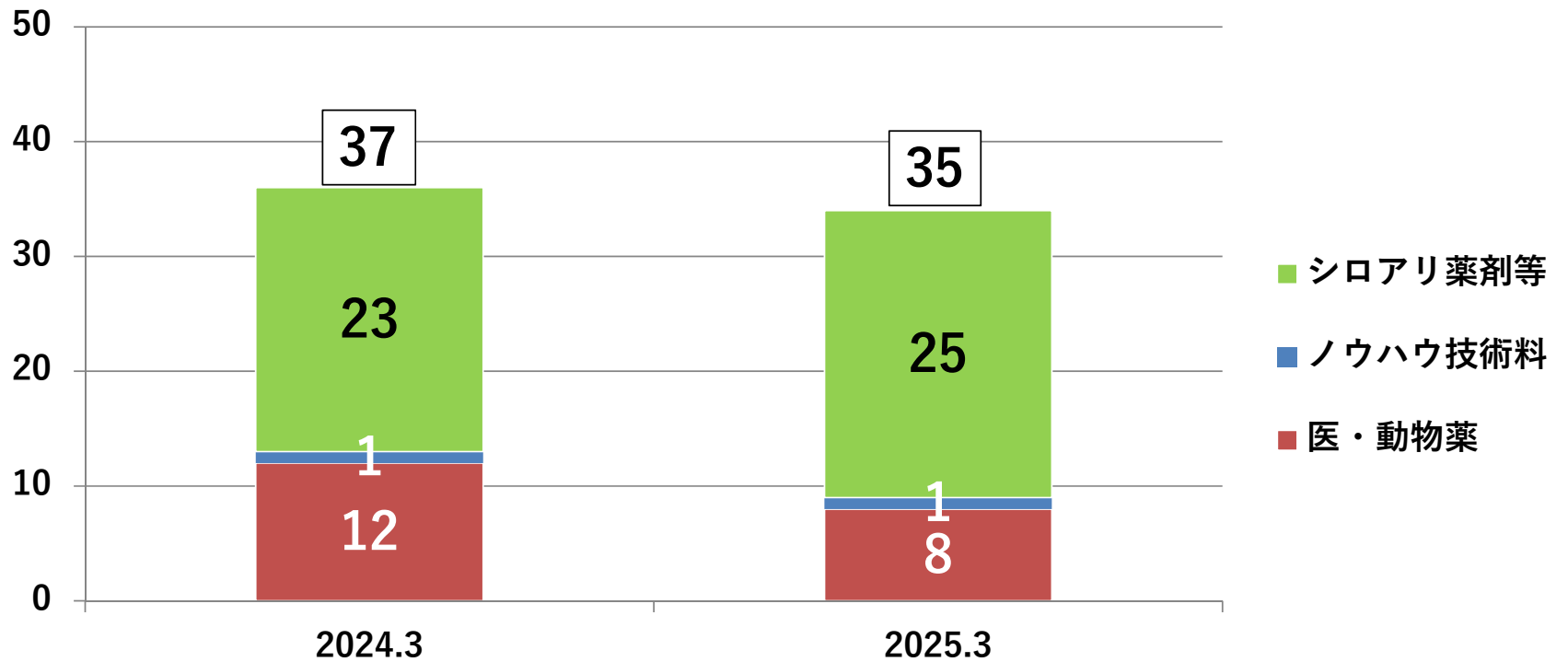
2025.3実績為替レート： 149.51円/ドル
158.21円/ユーロ

前期比微増



爪白癬向けでルリコナゾールの販売が減少

(億円)



III. 2026年3月期業績見通し

(単位：億円、%)

	26年3月期 計画	25年3月期 実績		
			前期比	伸び率
売上高	1,075	999	75	7.5
農薬（国内）	244	233	10	4.5
農薬（海外）	747	692	54	7.9
農薬（その他）	28	19	8	41.2
農薬以外の化学品	39	35	3	10.8
その他	17	18	△ 1	△ 9.3
売上原価	733	667	65	9.8
売上総利益	342	332	10	3.1
販売費及び一般管理費	262	246	15	6.5
営業利益	80	85	△ 5	△ 6.7
経常利益	72	70	1	1.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	48	23	24	103.7
ROE (自己資本当期純利益率)	6.1%	3.0%		

2026.3計画為替レート
145.00円/ドル
155.00円/ユーロ

2025.3実績為替レート
149.51円/ドル
158.21円/ユーロ

売上高 999億円 → 1,075億円 (+ 75億円)

営業利益 85億円 → 80億円 (- 5億円)

海外農薬販売の増益 + 16億円

ノウハウ技術料の増加 + 5億円

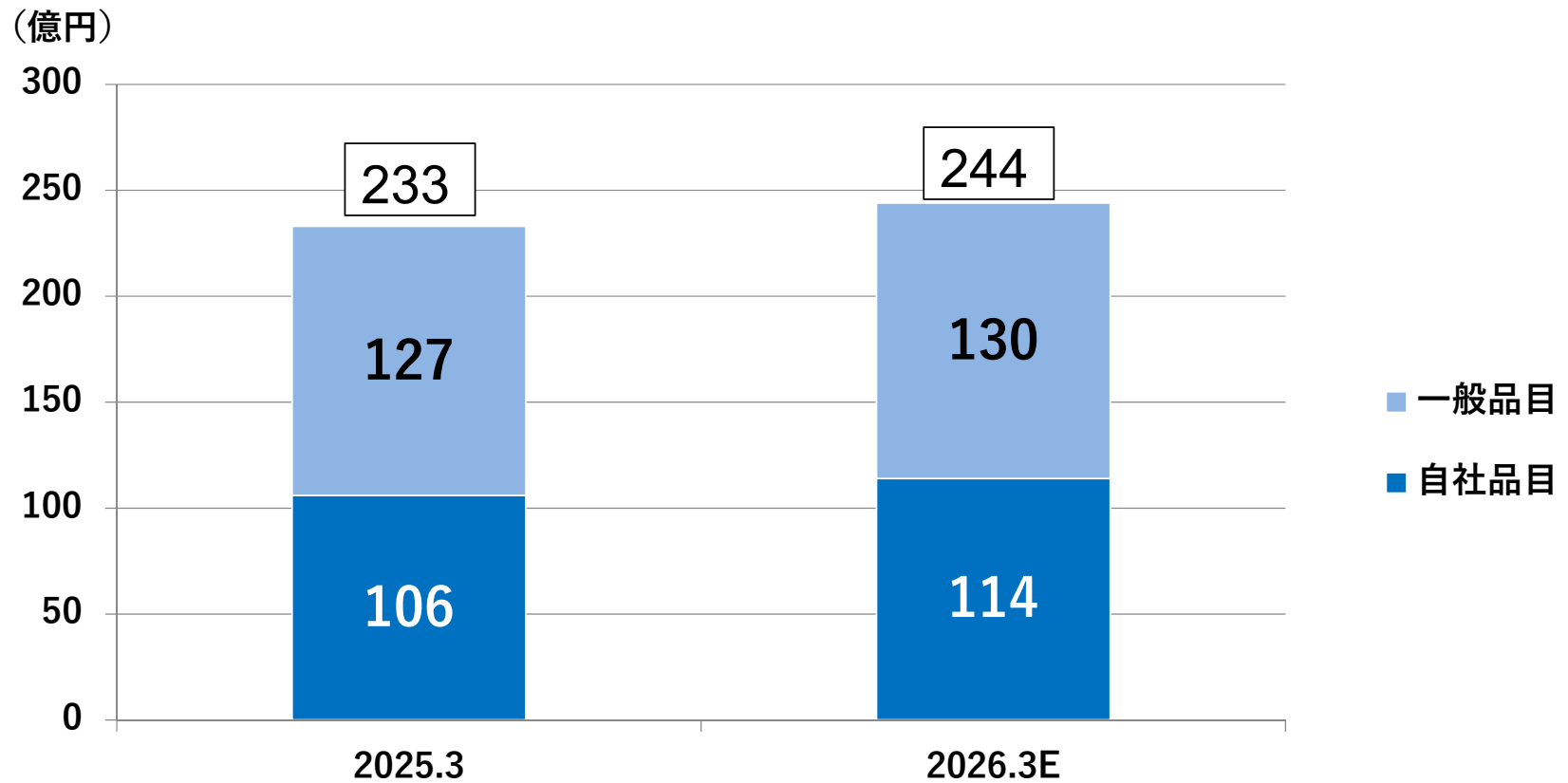
国内農薬販売の増益 + 2億円

医薬品事業の増益 + 2億円

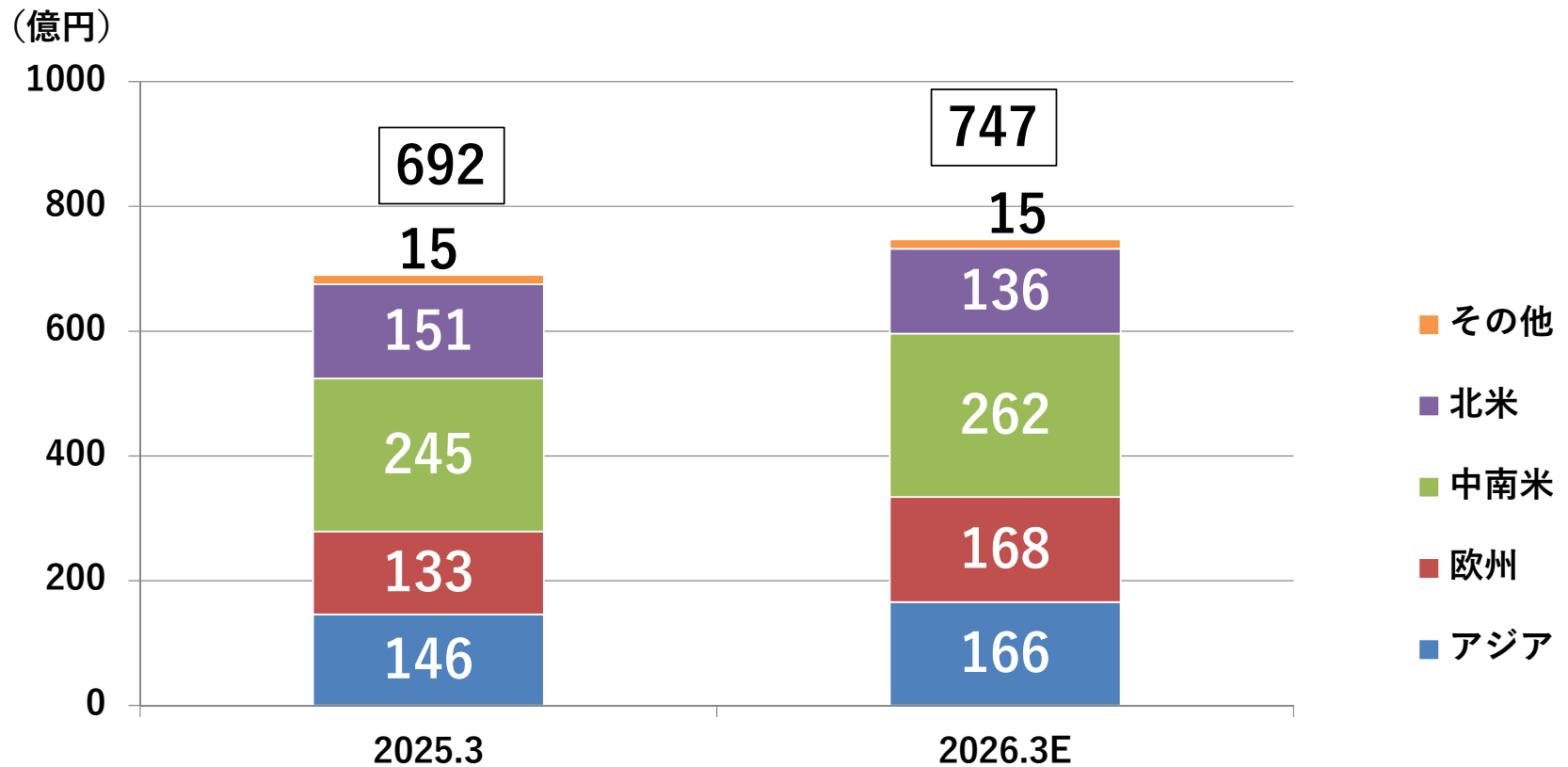
**研究開発費など販管費の増加
(為替影響除く) - 22億円**

為替影響による減益 - 8億円

自社品目の普及拡販、一般品目の品目拡大などにより増収



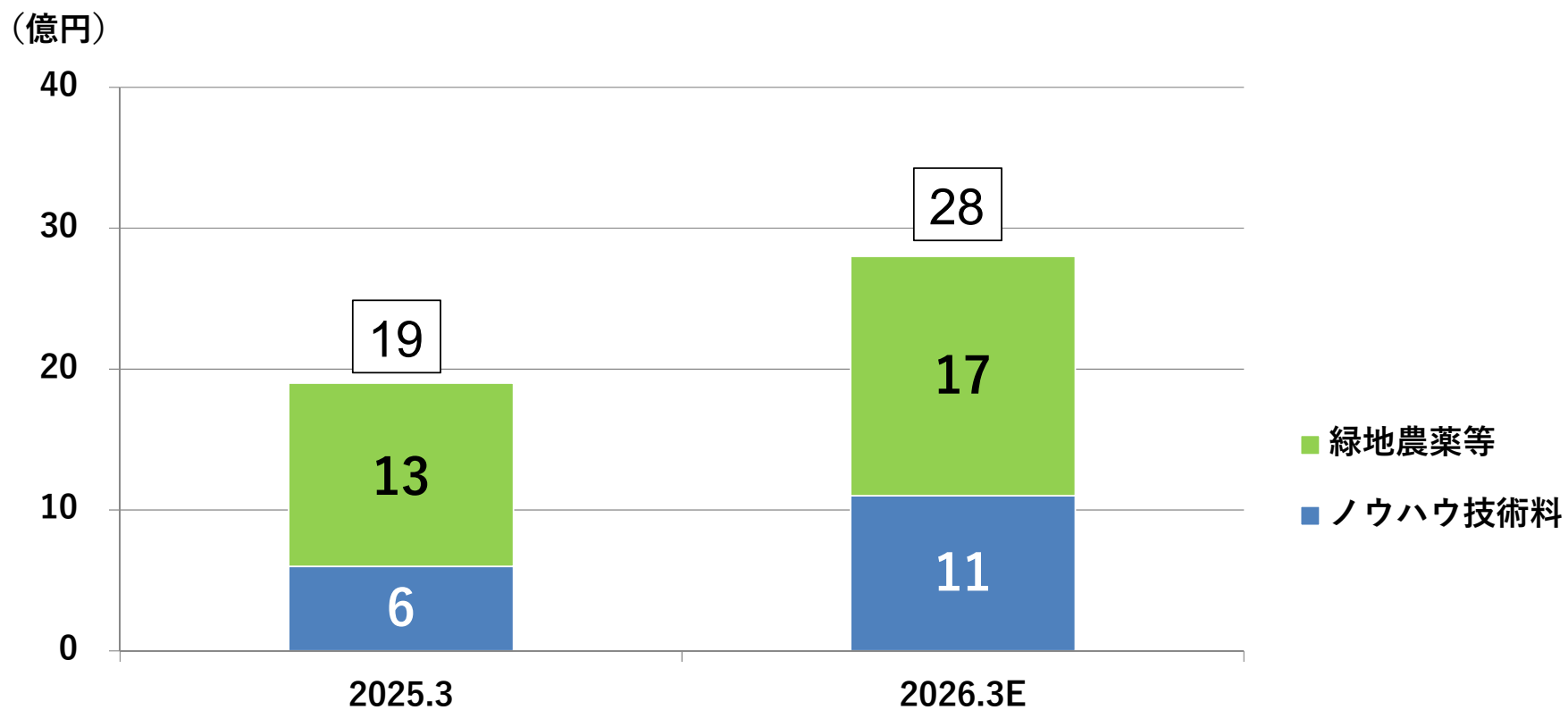
前期比増収



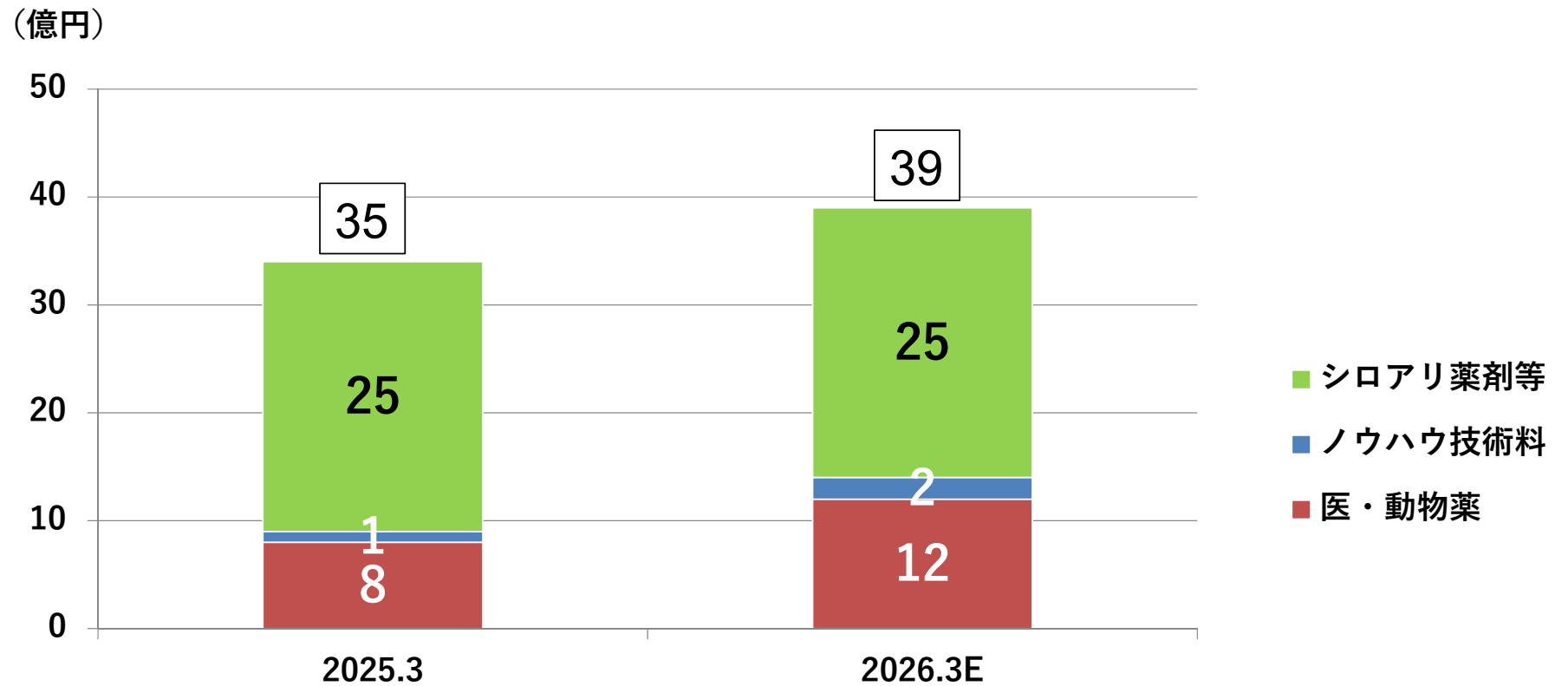
2025.3実績為替レート： 149.51円/ドル
158.21円/ユーロ

2026.3計画為替レート： 145円/ドル
155円/ユーロ

前期比増収



医・動物薬等が増収



年間25円の計画

			22.3	23.3	24.3	25.3	26.3E
親会社に帰属する 当期純利益		百万円	4,405	4,488	4,777	2,356	4,800
配当総額		百万円	1,181	1,260	1,417	1,732	1,969
1株当たり配当金	中間	円	7.5	8.0	9.0	10.0	12.0
	期末	円	7.5	8.0	9.0	12.0	13.0
	合計	円	15.0	16.0	18.0	22.0	25.0
配当性向		%	26.7	28.0	29.6	73.2	40.8

IV. 中期経営計画への取組状況



- 2024年の世界農薬市場は価格の下落、悪天候、在庫過多により大きな影響を受けた
- 2025年は市場の安定化が見込まれる（天候の改善や作付面積の変動）

地域	2024年概況	2025年展望
北アメリカ	<p>市場:117億ドル (-5.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農業収入の減少と農薬価格低下 ● 米国農業収入4.1%減少、現金収入は9.2%減少 ● 費用は6.1%増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農薬価格の安定化 ● 天候条件の改善 ● 在庫レベルの正常化
中南米	<p>市場:232億ドル (-7.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブラジル：農薬価格低下と悪天候 ● アルゼンチン：作物生産が回復 	<ul style="list-style-type: none"> ● 天候条件の改善 ● 農薬価格の安定化 ● ブラジル：大豆作付面積の増加
アジア太平洋	<p>市場:189億ドル (-7.0%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 農薬価格低下と悪天候 ● 日本：農薬価格上昇も市場はほぼ横ばい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 天候条件の改善 ● 在庫レベルの正常化
ヨーロッパ	<p>市場:137億ドル (-4.9%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 悪天候 	<ul style="list-style-type: none"> ● 天候条件の改善 ● 在庫レベルの正常化
中東・アフリカ	<p>市場:25億ドル (-7.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 通貨安と悪天候 	<ul style="list-style-type: none"> ● 天候条件の改善 ● 農薬価格の安定化

基本方針		中計指標 (2026年度)	成果	課題
事業と収益の 拡大	重点品目・新規事業の 拡大	売上高に占める主要重点品目の割合25%	・主要重点品目：ピラフルフェンエチルの拡販	・ベンズピリモキサン等のインド市場での 苦戦
	エリア戦略に基づいた 市場拡大	海外販売比率75%	・ニチノーチリの本格稼働、メキシコでの品目拡大	・ニチノーインドアの収益力低下
新たな収益源の 創出	化学合成	系統の着実なステージアップ	・シベンゾキサスルフィル（NNI-2101）の開発進捗 ・有望開発候補化合物2剤の開発ステージアップ	・開発の着実な進捗
	バイオリソース活用	生物農薬・作物保護資材：21億円 酵素による化合物生産ビジネス開始	・新規微生物殺菌剤に関するIPと登録開発販売権利取得 ・バイオリソースを活用した生産技術研究の進展	・生物農薬・作物保護資材の品目拡大
	デジタル技術の活用	AI診断技術の収益拡大	・JA全農「Z-GIS」との連携、クボタ「KSAS」との連携 ・AI病害虫雑草診断アプリ「AcroSeeker®」グローバル対応 ・『DX認定事業者』認定取得、新基幹システムの本格稼働開始	・AI診断ビジネスの収益化 ・更なる業務効率化、合理化
	新たなビジネスモデル の取り込み・創出	既存事業、新規事業への投資	・医薬事業の海外展開（シンガポールでの販売開始、 アジア・オセアニア地域におけるライセンス契約締結）	・新たなビジネスの取り込み・創出
財務基盤の 強化	資本収益性の向上	ROE：8%以上	・2024年度ROE：3.0% ・設備投資進捗：28億円 ・遊休資産の整理：大阪事務所の一部土地売却	・資本収益性 ROE指標向上
	キャッシュフローの改 善	在庫削減	・営業キャッシュフロー増加：前期末比+107億円	・委託研究費の増加 ・グループ会社の支払金利負担増
	固定費適正化（生産性 向上）	研究開発費：3年間約200億円	・パイプライン化合物の優先順位付	・グローバル同時開発に向けた化合物選抜

基本方針	中計指標 (2026年度)	成果	課題	
E : 環境経営の高度化	気候変動対応	GHG排出：2030年23%削減 (2020年対比)	<ul style="list-style-type: none"> ・ GHG排出 : 照明LED化、Jクレジット購入、ニチノーインディア再生エネルギー購入 ・ 「DBJ環境格付」B評価取得 ・ 欧州CSRD対応を実施 (ADEKA社と協働) ・ 「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄に継続採用 ・ CDP「気候変動」スコアB 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GHG2030年23%削減の実現に向けたアクション加速化
	生物多様性への配慮	環境調和型製品の売上高：393億円	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境調和型製品の2024年度販売実績：347億円 ・ アドプトフォレスト上原ニチノーの森づくり活動の実施 (総研) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境調和型製品の拡大 ・ 社会ニーズ対応による事業創出の実現
S : 人権経営の推進	人的資本経営の推進	エンゲージメントスコア：70以上 女性管理職比率：13% 研修時間：10時間/年	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンゲージメントスコア：69 (2025年2月実施) ・ 女性管理職比率：9.5% ・ 人財開発の推進：女性社員向け、エンゲージメント研修 社内副業制度の導入決定 ・ 健康経営の取組：日本農薬、ニチノー緑化 (銀の認定申請) アグリマート、日本エコテック (本社) 活動中 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンゲージメントスコアの向上 ・ 女性管理職比率の向上 ・ 健康経営の取組のさらなる展開 ・ 死亡事故、休業災害の発生 ・ 研修の強化
	ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進	キャリア採用比率：50% 外国人比率：2% 障がい者雇用数：12名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権DD取組 「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき実施中 (救済メカニズム、パートナーシップ構築宣言予定) ・ 「健康経営優良法人 (大規模法人部門) 2025」の認定取得 ・ キャリア採用比率：24% キャリアエントリー制度、ジョブリターン制度の実施 ・ 外国人採用：1名 ・ 障がい者雇用数：11名 (2025年3月末時点法定雇用率到達) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア採用比率の向上 ・ 外国人比率の向上 ・ DE&Iのさらなる推進
G : 企業・組織統治の強化	コンプライアンス・リスクマネジメントの強化	BCPのブラッシュアップ 品質保証体制や情報セキュリティの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル展開と管理 ・ 情報セキュリティ強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ BCPのブラッシュアップ ・ サイバーセキュリティの強化 (グループ全体) ・ 労働災害、保安災害の連絡体制整備

基本方針	中計指標 (2026年度)	課題	2025年度の取り組み
事業と収益の 拡大	重点品目・新規事業の 拡大	売上高に占める主要重点品目の割合25%	・ベンズピリモキサン等のインド市場での 苦戦
	エリア戦略に基づいた 市場拡大	海外販売比率75%	・ニチノーインドアの収益力低下
新たな収益源の 創出	化学合成	系統の着実なステージアップ	・開発の着実な進捗
	バイオリソース活用	生物農薬・作物保護資材：21億円 酵素による化合物生産ビジネス開始	・生物農薬・作物保護資材の品目拡大
	デジタル技術の活用	AI診断技術の収益拡大	・AI診断ビジネスの収益化 ・更なる業務効率化、合理化
	新たなビジネスモデル の取り込み・創出	既存事業、新規事業への投資	・新たなビジネスの取り込み・創出
財務基盤の 強化	資本収益性の向上	ROE：8%以上	・資本収益性 ROE指標向上
	キャッシュフローの改 善	在庫削減	・委託研究費の増加 ・グループ会社の支払金利負担増
	固定費適正化（生産性 向上）	研究開発費：3年間約200億円	・グローバル同時開発に向けた化合物選抜
			・販売計画の確実な進捗
			・ニチノーインドアの再建策の実行 (後述)
			・研究開発計画の着実な進捗
			・研究拠点の設置とローンチ ・研究加速策の確実な実施
			・連携を活かした展開、新しいサービスの創出 ・業務効率化、合理化の促進継続
			・新たなビジネスの取り込み・創出検討
			・資本収益性 ROE指標向上継続
			・委託研究費のモニタリング ・グループ内貸付、増資の実施
			・適正な投資採算性基準の運用 ・早期の化合物選抜

基本方針	中計指標 (2026年度)	課題	2025年度の取り組み
E：環境経営の高度化	気候変動対応 GHG排出：2030年23%削減 (2020年対比)	・ GHG2030年23%削減の実現に向けたアクション加速化	・ 持続的なGHG削減に向けた管理強化
	生物多様性への配慮 環境調和型製品の売上高：393億円	・ 環境調和型製品の拡大 ・ 社会ニーズ対応による事業創出の実現	・ 環境調和型製品の再定義、モニタリング ・ マーケットインビジネス創出
S：人権経営の推進	人的資本経営の推進 エンゲージメントスコア：70以上 女性管理職比率：13% 研修時間：10時間/年	・ エンゲージメントスコアの向上 ・ 女性管理職比率の向上 ・ 健康経営の取組のさらなる展開 ・ 死亡事故、休業災害の発生 ・ 研修の強化	・ コミュニケーション強化 ・ 国内グループ会社全社への健康経営展開 ・ NICHINO グループの安全文化の醸成 ・ 研修の強化
	ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 キャリア採用比率：50% 外国人比率：2% 障がい者雇用数：12名	・ キャリア採用比率の向上 ・ 外国人比率の向上 ・ DE&Iのさらなる推進	・ 障がい者・外国人採用、キャリア採用強化
G：企業・組織統治の強化	コンプライアンス・リスクマネジメントの強化 BCPのブラッシュアップ 品質保証体制や情報セキュリティの強化	・ BCPのブラッシュアップ ・ サイバーセキュリティの強化（グループ全体） ・ 労働災害、保安災害の連絡体制整備	・ BCP（事業継続計画）のブラッシュアップ継続 ・ サイバーセキュリティの強化（グループ全体） ・ 労働災害、保安災害の連絡体制整備

- ニチノーインディアを除く海外グループ各社は成長トレンド

- ・ ニチノーヨーロッパ（NEU）とInteragro(UK)社の経営統合

- NEUによるInteragro社製品の取扱い開始
- 英国・アイルランドにおける現地卸店への直接取引の開始
- 農薬に加えバイオスティミュラント・アジュバント等の開発・普及拡販を強化

- ・ 持分法適用会社となっていたニチノーベトナムを連結子会社化、東南アジアにおける自社品の普及拡販を進める

- ・ ニチノーアメリカ（NAI）によるNAFTA地域（カナダ、メキシコ）での販売拡大

- ・ シプカムニチノーブラジル（SNB）の収益力回復

● ニチノーインディアの再建策の実行

- ・ B to C（直販、全事業に占める割合約65%）、B to B主要品目のマーケティング戦略再構築による販売回復
- ・ B to C営業体制の見直しによる販管費の圧縮
- ・ 原材料購買方針や製造工程の見直しによる収益性向上
- ・ 売掛債権回収強化によるキャッシュフロー改善や増資・親子ローン等金融費用の削減対策を継続検討

2030年度のありたい姿（見直し前）

- 営業利益率10%以上売上高1,500億円超
- ROE10%以上
- GHG排出量23%削減（2020年対比）
- 環境調和型製品・サービス・技術の拡大
- グローバルな人的資本の活用

2030年度のありたい姿（見直し後）

- 営業利益率10%以上売上高1,650億円超
- ROE10%以上
- GHG排出量23%削減（2020年対比）
- 環境調和型製品・サービス・技術の拡大
- グローバルな人的資本の活用
- 配当性向50%を目指す

- 既存事業は、市場成長を上回る毎年約5%の成長を継続
- 蓋然性が高くなりつつある香料・化粧品分野、生物農薬およびバイオスティミュラントなど新規事業の売上高150億円を上乗せ
- 原材料購買方針や製造工程の見直しによる収益性向上

● 農薬事業：地域戦略

成長の主体は
販売比率70%を
超える海外

海外

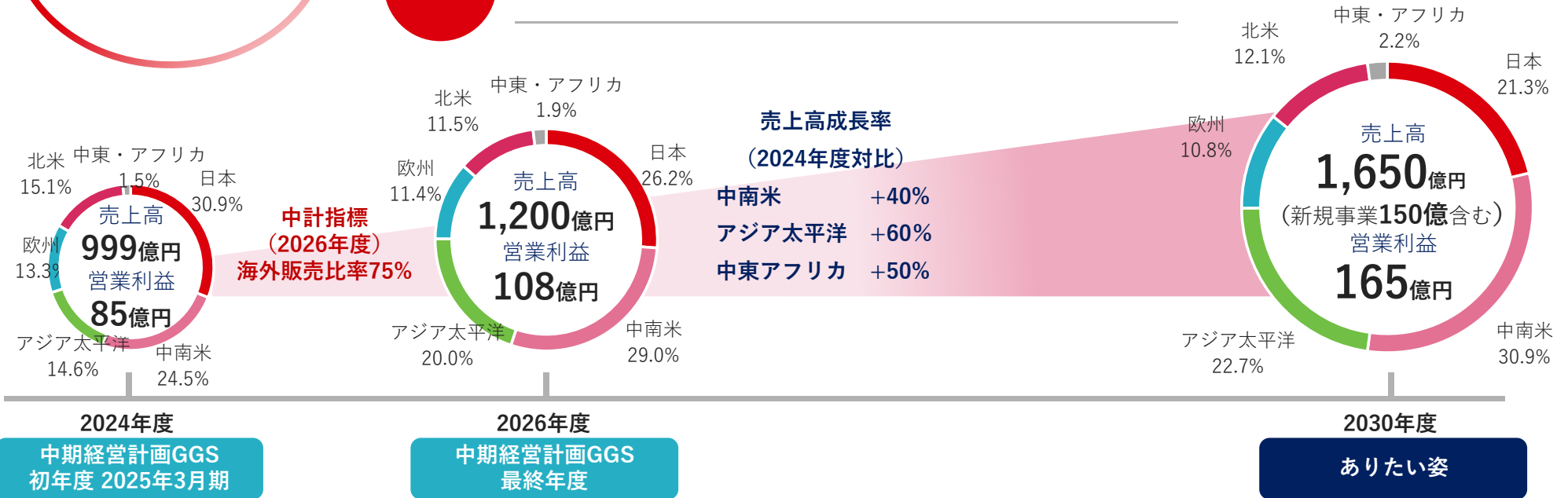
成長市場

- 事業拡大追求（ブラジル、アジア太平洋、中東アフリカ）
- 収益性追求（北米、欧州）

国内

成熟市場

- 収益性追求



注：2030年度の円グラフは農薬事業の1,500億円の割合となっています

- 成長市場の中南米、アジア太平洋（インド）市場では、高付加価値のSpecialty Crop向け製品を積極的に投入。成熟市場では、製品を充実

NICHINO グループ

方針：投資拡大

- ・ 収益性の高い新薬創出（研究開発・長期）
- ・ 化学農薬以外の開発（研究開発・長期）
- ・ デジタル技術開発
- ・ 原価低減と利益性向上



北米

市場：成長 **関税政策**
 現状：拡大 自社剤中心 高利益
 方針：投資維持・微増

- ・ Specialty Crop 向け自社製品に注力。安定成長を図る
- ・ メキシコ市場の拡大、カナダ市場開拓



欧州

市場：成熟 **環境規制**
 現状：拡大 自社剤中心 高利益
 方針：投資維持・微増

- ・ 主力除草剤ピラフルフェンエチルの最大化
- ・ 化学農薬以外の拡販（アジュバント、BS製品）
- ・ UK、アイルランド直販



日本

市場：成熟
 現状：微増 自社剤中心 高利益
 方針：投資維持

- ・ 自社製品と他社製品の拡充による売上シェア拡大
- ・ ポートフォリオ見直しによる利益性の維持向上



アジア太平洋

市場：成長
 現状：拡大 **ジェネリック中心** 中～低利益
 方針：投資拡大（資本増強）

- ・ Specialty Crop 向け製品に注力
- ・ 自販はインド・ベトナムにフォーカス
- ・ 製造拠点（インド）活用で原価低減と収益向上を狙う



中南米

市場：成長 **高ボラティリティ**
 現状：拡大 **ジェネリック中心** 中～低利益
 方針：投資拡大（資本増強）







- ・ Specialty Crop 向け自社製品に注力
- ・ ブラジルで売上増と利益増を共に狙う
- ・ コロンビア・チリ拠点によるその他市場拡大

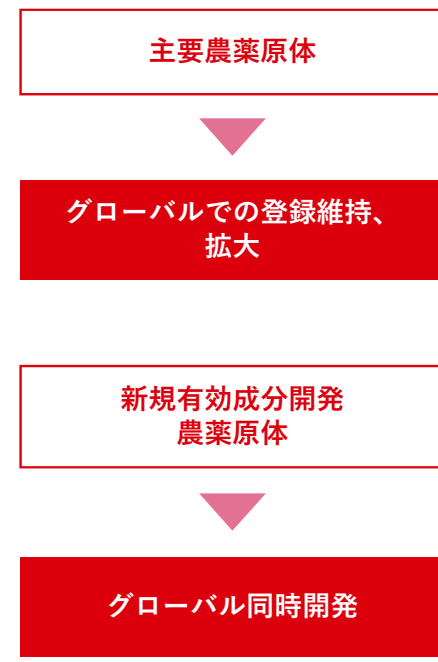
有望市場として中東・アフリカは新規開拓

(ご参考) 主要重点品目5剤の地域別ターゲット

- 日本での実績を踏まえて、Specialty Crop向けの主要重点品目5剤を地域に合わせて展開へ
- 市場規模の大きいアジア太平洋と中南米中心に拡販
- 中東・アフリカは有望エリアとして期待

◎ 展開済み ○ 展開中 △ 展開余地大きい - 展開予定なし

原体	用途	日本	アジア太平洋	北米	中南米	欧州	中東・アフリカ
							
		市場規模	3千億円	2.7兆円	1.7兆円	3兆円	1.8兆円
市場成長	成熟	成長	成長	成長	成熟	成長	
ベンズピリモキサン	殺虫剤	◎	○	-	-	-	-
フルベンジアミド	殺虫剤	◎	◎	-	○	-	○
ピリフルキナゾン	殺虫剤	◎	○	○	○	-	△
トルフェンピラド	殺虫剤	◎	○	○	○	-	△~○
ピラフルフェンエチル	除草剤	◎	○	◎	○	○~◎	△



- 農薬事業以外の新規事業等：バイオリソースを活用した製品・サービスの展開
- ✓ 高付加価値化合物の生産技術開発（理化学研究所との共同研究）



今後の展開

香料・化粧品分野での事業化を目指す
将来的には作物保護資材・医薬品原料などへ応用拡大

● 農薬事業以外の新規事業等：バイオリソースを活用した製品・サービスの展開

✓ 生物農薬・作物保護資材の開発推進

環境調和型製品として重点市場である欧州を中心に技術導入、獲得資材を普及拡大
 自社開発を加速する

領域	成果と進捗
生物農薬	販売権利の獲得 現在30製品以上 について導入検討中
作物保護資材 (バイオスティミュ ラント等)	国内：日本農薬で凍霜害抑制剤フロストバスター、微生物資材クロスバリュー販売開始 ニチノー緑化で複数資材を販売 欧州：ニチノーヨーロッパでアジュバント、バイオスティミュラント販売 中南米：シプカム・ニチノー・ブラジルで4種製品の販売 アジア・太平洋：ニチノーインドアで2種製品の販売 現在20製品以上 について導入検討中

2030年に50億円以上の販売を目指す

- シベンゾキサスルフィル（略称：CBX）の開発を加速
- 2030年以降に販売開始予定の農薬および動物薬分野における新剤への先行投資を強化

	新製品候補	分野	実用性評価	開発	上市	備考
殺虫剤	シベンゾキサスルフィル	園芸用殺虫剤		● ...→	2028年以降	ピーク時売上高目標50億円※
	殺虫剤A	水稲用殺虫剤		→ ●		標的市場規模4,060億円
除草剤	除草剤A	水稲用除草剤		→ ●		標的市場規模4,350億円
殺菌剤	殺菌剤A	畑作用殺菌剤	●			
	殺菌剤B	果樹・野菜用殺菌剤	●			
動物薬	動物薬A	ペット動物用	●			ADEKA社共同研究
	動物薬B	ペット動物用	●			動物薬メーカー共同研究
	動物薬C	ペット動物用	●			動物薬メーカー共同研究

※2030年度以降のピーク時を想定

- 殺虫剤A、除草剤Aを2024年度に開発フェーズにステージアップ、上市を目指して開発を加速化
- ADEKA社や動物薬メーカーとの協働により動物薬分野のR&Dの取組みを強化

● シベンゾキサスルフィル(略称：CBX)の特長

幅広い殺虫スペクトル

園芸作物（specialty crop）の栽培上問題となる、チョウ目、カメムシ目、コウチュウ目、ハエ目といった広範囲の害虫に高い効果を示し、汎用性が高い殺虫剤



既存剤に対して感受性が低下した害虫種に有効

新規作用性を有し、既存剤に感受性の低下した害虫に対しても有効、作物の安定生産に貢献できる

優れた浸透移行性

セルトレイ灌注処理での実用性が確認されており、利便性の高い害虫防除剤として、生産者の省力化にも寄与する

シベンゾキサスルフィル
散布処理14日後



無処理
(アオムシ、ハイマダラノメイガ被害)



● シベンゾキサスルフィル開発の進捗状況

日本、インド、韓国で2025年に農薬登録を申請し
2028年以降に上市予定

本剤のニーズと登録性の高い3カ国で、2025年に農薬登録の申請を行い、2028年以降の登録認可並びに上市を予定。使用方法や適用作物等の拡大に向け、研究開発を鋭意実施中。

2025年：日・印・韓で農薬登録申請予定



2028年以降：登録認可/上市予定

日・印・韓で30億円強の販売を見込み、さらなる
販売拡大に向けその他の国・地域でも評価開始

3カ国で30億円強の販売を見込み、その他の登録性や市場性がある国や地域で評価を開始、登録国・地域、作物、使用方法等の更なる拡大により、ピーク時売上高50億円の販売を目指す。

日本：19億円

葉菜、果菜、根菜、果樹、
茶、芝



インド：9億円

葉菜、果菜



韓国：3億円

葉菜、果菜、豆、果樹



+ α

登録国・地域、作物、使用
方法の拡大等

- 業界再編における主導的な立場を目指す
- 機動的且つ積極的な検討を継続
- 新規事業を育成

目的	対象（ターゲット）	想定規模
収益拡大	国内＝同業他社	大
	海外＝重要拠点強化・機能強化	小～中
新規事業育成	生物農薬・BS等の品目買収やベンチャー企業との提携・出資	小～中
DX	スマート農業事業発展に資する技術保有企業との提携・出資	小～中
既存事業育成	品目買収	大
既存事業整理	不採算事業・製品等の整理	収益～小

近年のM & A 拠点強化等実績

- ✓ NEUによるInteragro社買収（アジュバント・BS）
- ✓ チリ現地法人、Nichino Chile設立
- ✓ 微生物殺菌剤の権利取得

小規模：10百万～5億円、中規模：5億円～30億円、大規模：30億円以上

- 配当に関する基本方針

長期的な観点に立ち、事業収益の拡大と財務体質の強化を図ることによって企業価値の向上に努め、株主の皆様に対して安定的かつ継続的な利益配当を行う

- 本中期経営計画期間における配当方針

見直し前：累進配当を基本とし、中長期的には配当性向40%水準を目指す
⇒見直し後：累進配当を基本とし、**配当性向40%を目安に配当を行う**

- **2030年のありたい姿における配当方針（新設）**

配当性向50%を目指す

1. PBR向上を意識した企業価値向上策の実施（PBR1倍割れの解消）

PBR = ROE × PER より
ROEの向上が課題

ROEの向上：「**利益率の改善**」、株主還元率の向上、政策保有株式の縮減等

*併せて「**中期経営計画**」など**成長戦略推進**で期待収益率も改善していく

2. IR活動のさらなる活発化

- ・ **さらなる活発化で市場で当社株認知度向上を継続**
(決算説明会に加えて、中期経営計画の公表、HPの情報発信充実・投資家向け説明会の充実など)

- 3年間で研究開発投資200億円、設備投資80億円を想定 事業拡大と企業価値の向上に努める
- 他方、株主の皆様に対して、積極的な株主還元を行い、**配当性向40%を目安に配当を行う**
- 本中期経営計画期間中は、**累進配当を基本**として、企業価値向上のための投資資金需要や財務健全性を総合的に勘案し配当額を決定する

3年間（2024年度から2026年度）のキャピタル・アロケーション

キャッシュ・イン

キャッシュ・アウト

営業CF 3年間累計 425億円 (+15億円)	研究開発投資 200 億円 (+10億円)	2024年度 63億円 2025年度 76億円 2026年度 61億円		
	設備投資 80 億円 (-5億円)	研究設備投資 10億円 生産更新投資 13億円 生産積極投資 36億円	DX投資 13億円 その他 8億円	
	投融資枠* 20 億円 (+10億円)	主たる対象：インド、ブラジルを想定		
	株主還元 65 億円 (+15億円)	配当方針： (累進配当を基本、配当性向 40%水準)		
	外部調達 10 億円	内部留保 70 億円 (-15億円)	財務の健全性とROEの改善が両立できる純資産額	

*M&Aは除く

キャピタル・アロケーションに基づき、効率的な資本政策を投資と内部留保と株主還元のバランスを考慮しながら、企業価値を高めていく

事業拡大を目的として、3年合計の営業CF425億円の範囲内での投資を実施予定、外部資金活用も視野

最低手元現金必要額と投融資枠を除いた額を株主還元配分予定 **累進配当を基本とする**

2025年度配当は25円を予定



V. 質疑応答

代表取締役社長	岩田 浩幸
常務執行役員 経営企画本部長 兼 管理本部長	高橋 史郎
常務執行役員 研究本部長 兼 海外営業本部長	元場 一彦
執行役員 経営企画本部副本部長	藤田 恭浩
管理本部 経理部長	古賀 幹和
管理本部 総務・法務部長	吉岡 正樹



2025年3月期
決算説明会

2025年5月29日

証券コード：4997
東証プライム市場



ご参考資料

国内グループ会社主要業績

(単位：百万円、%)

		25年3月期	24年3月期	前期比	伸び率
		実績	実績		
日本農薬	売上高	53,821	52,811	1,009	1.9
	営業利益	4,138	3,809	328	8.6
	当期純利益	△ 2,731	4,054	△ 6,785	—
ニチノサービス	売上高	4,050	4,209	△ 158	△ 3.8
	営業利益	160	177	△ 17	△ 9.8
	当期純利益	54	112	△ 58	△ 52.0
ニチノ緑化	売上高	2,089	1,882	207	11.0
	営業利益	54	37	17	46.2
	当期純利益	36	23	12	53.9
日本エコテック	売上高	940	900	40	4.5
	営業利益	60	44	15	36.2
	当期純利益	42	32	10	32.3
アグリマート	売上高	2,518	2,314	204	8.8
	営業利益	287	252	34	13.8
	当期純利益	187	163	23	14.2

海外グループ会社主要業績

(単位：百万円、%)

		25年3月期	24年3月期		売上高 為替換算レート(円)		
		実績	実績	前期比			伸び率
ニチノアメリカ	売上高	15,117	12,904	2,212	17.1	米ドル	
	営業利益	1,538	1,186	351	29.7	2024.3実績	145.27
	当期純利益	1,206	896	310	34.6	2025.3実績	152.16
日佳農薬	売上高	441	490	△ 48	△ 9.9	台湾ドル	
	営業利益	△ 8	24	△ 32	—	2024.3実績	4.61
	当期純利益	△ 2	23	△ 25	—	2025.3実績	4.69
ニチノインド	売上高	9,186	12,833	△ 3,646	△ 28.4	インドルピー	
	営業利益	△ 253	325	△ 578	—	2024.3実績	1.77
	当期純利益	△ 434	101	△ 536	—	2025.3実績	1.80
シブカムニチノブラジル	売上高	22,563	23,422	△ 859	△ 3.7	ブラジルリアル	
	営業利益	1,910	422	1,487	351.9	2024.3実績	28.55
	当期純利益	131	△ 375	506	—	2025.3実績	27.29
ニチノヨーロッパ	売上高	8,807	7,422	1,384	18.7	英ポンド	
	営業利益	908	676	231	34.1	2024.3実績	182.24
	当期純利益	763	492	270	54.9	2025.3実績	194.64
ニチノベトナム	売上高	1,462	—	—	—	ベトナムドン(100ドン)	
	営業利益	92	—	—	—	2024.3実績	—
	当期純利益	61	—	—	—	2025.3実績	0.63

海外グループ会社主要業績

(現地通貨建て)

		25年3月期	24年3月期		
		実績	実績	前期比	伸び率
ニチノアメリカ (単位:千ドル、%)	売上高	99,351	88,831	10,519	11.8
	営業利益	10,130	8,047	2,082	25.9
	当期純利益	7,936	6,068	1,867	30.8
日佳農薬 (単位:千台湾ドル、%)	売上高	94,198	106,477	△ 12,279	△ 11.5
	営業利益	△ 1,753	5,364	△ 7,118	—
	当期純利益	△ 461	5,183	△ 5,644	—
ニチノインド (単位:千ルピー、%)	売上高	5,094,979	7,258,339	△ 2,163,360	△ 29.8
	営業利益	△ 126,304	172,644	△ 298,949	—
	当期純利益	△ 231,787	49,620	△ 281,407	—
シブカムニチノブラジル (単位:千リアル、%)	売上高	826,815	820,400	6,415	0.8
	営業利益	73,818	15,144	58,674	387.4
	当期純利益	7,470	△ 13,953	21,423	—
ニチノヨーロッパ (単位:千ポンド、%)	売上高	45,249	40,730	4,519	11.1
	営業利益	4,642	3,740	901	24.1
	当期純利益	3,911	2,737	1,173	42.9
ニチノベトナム (単位:百万ドン、%)	売上高	233,016	—	—	—
	営業利益	14,455	—	—	—
	当期純利益	9,645	—	—	—

国内グループ会社主要計画

(単位：百万円、%)

		26年3月期	25年3月期		
		計画	実績	前期比	伸び率
日本農業	売上高	54,777	53,821	956	1.8
	営業利益	3,061	4,138	△ 1,077	△ 26.0
	当期純利益	3,511	△ 2,731	6,242	—
ニチノサービス	売上高	4,386	4,050	335	8.3
	営業利益	175	160	15	9.7
	当期純利益	125	54	71	131.6
ニチノ緑化	売上高	2,167	2,089	77	3.7
	営業利益	32	54	△ 22	△ 40.6
	当期純利益	18	36	△ 18	△ 49.9
日本エコテック	売上高	930	940	△ 10	△ 1.2
	営業利益	27	60	△ 33	△ 55.0
	当期純利益	19	42	△ 22	△ 53.1
アグリマート	売上高	2,536	2,518	17	0.7
	営業利益	266	287	△ 20	△ 7.3
	当期純利益	170	187	△ 16	△ 8.8

海外グループ会社主要計画

(単位：百万円、%)

		26年3月期 計画	25年3月期 実績	売上高 為替換算レート(円)			
				前期比	伸び率		
ニチノアメリカ	売上高	13,683	15,117	△ 1,434	△ 9.5	米ドル	
	営業利益	1,084	1,538	△ 454	△ 29.5	2025.3実績	152.16
	当期純利益	774	1,206	△ 432	△ 35.8	2026.3計画	145.00
日佳農薬	売上高	500	441	59	13.4	台湾ドル	
	営業利益	13	△ 8	21	—	2025.3実績	4.69
	当期純利益	14	△ 2	16	—	2026.3計画	4.50
ニチノインド	売上高	11,248	9,186	2,061	22.4	インドルピー	
	営業利益	457	△ 253	710	—	2025.3実績	1.80
	当期純利益	272	△ 434	706	—	2026.3計画	1.70
シブカムニチノブラジル	売上高	23,965	22,563	1,402	6.2	ブラジルレアル	
	営業利益	1,963	1,910	53	2.8	2025.3実績	27.29
	当期純利益	431	131	300	228.7	2026.3計画	26.00
ニチノヨーロッパ	売上高	11,269	8,807	2,461	28.0	英ポンド	
	営業利益	1,158	908	250	27.5	2025.3実績	194.64
	当期純利益	787	763	23	3.1	2026.3計画	190.00
ニチノベトナム	売上高	1,557	1,462	95	6.5	ベトナムドン(100ドン)	
	営業利益	85	92	△ 6	△ 7.3	2025.3実績	0.63
	当期純利益	35	61	△ 25	△ 42.2	2026.3計画	0.60

海外グループ会社主要計画

(現地通貨建て)

		26年3月期	25年3月期		
		計画	実績	前期比	伸び率
ニチノアメリカ (単位:千ドル、%)	売上高	94,367	99,351	△ 4,983	△ 5.0
	営業利益	7,478	10,130	△ 2,652	△ 26.2
	当期純利益	5,339	7,936	△ 2,596	△ 32.7
日佳農薬 (単位:千台湾ドル、%)	売上高	111,327	94,198	17,129	18.2
	営業利益	2,948	△ 1,753	4,702	—
	当期純利益	3,212	△ 461	3,673	—
ニチノインド (単位:千ルピー、%)	売上高	6,616,579	5,094,979	1,521,599	29.9
	営業利益	269,005	△ 126,304	395,309	—
	当期純利益	160,078	△ 231,787	391,865	—
シブカムニチノブラジル (単位:千リアル、%)	売上高	921,755	826,815	94,940	11.5
	営業利益	75,505	73,818	1,687	2.3
	当期純利益	16,606	7,470	9,135	122.3
ニチノヨーロッパ (単位:千ポンド、%)	売上高	59,312	45,249	14,062	31.1
	営業利益	6,095	4,642	1,453	31.3
	当期純利益	4,142	3,911	231	5.9
ニチノベトナム (単位:百万ドン、%)	売上高	259,613	233,016	26,596	11.4
	営業利益	14,276	14,455	△ 178	△ 1.2
	当期純利益	5,922	9,645	△ 3,722	△ 38.6



2025年3月期 決算説明会

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、既知及び未知のリスクや不確実性及びその他の要素を内包しており、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

日本農薬株式会社

2025年5月29日

